

( 熊本県立水俣高等 ) 学校 令和4年度(2022年度)学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえ、校訓「自律・敬愛・創造」のもと、知・徳・体の調和がとれ、自ら考え、学び、夢に向かって主体的に行動する力を備えたグローバルリーダーの育成をめざす。</p> <p>そのため、全教職員は一体となり、教育者としての使命感と愛情を持って、家庭・地域社会との連携を深めながら、魅力ある学校づくりに努め、本校教育の充実・発展を図る。</p> <p>教育スローガン ～「何事にも当事者意識を持ち、主体的に行動できる生徒の育成」～</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 健全な心身の育成</p> <p>(2) 確かな学力の育成と進路実現に向けた取組の充実</p> <p>(3) S G H事業の効果的な継承とグローバルリーダーの育成</p> <p>(4) 保護者や地域社会に信頼される学校づくり</p>
---

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	特色ある学校づくり	S G H事業の効果的な継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究指定期間における関係機関との連携事業を効果的に継承し、さらに発展させ、グローバルリーダーを育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの「水俣ACT I」の活動を継承しながらも生徒の実情や改善点を取り入れ、「探究」活動について、地域と連携しながら体系的に実施できるカリキュラムを確立する。</li> <li>これまで「水俣ACT II」で実施してきた外部との連携事業について、継承・推進する。</li> <li>3年間の体系的な活動をいかした進路研究を進める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「水俣ACT I」の体系的なカリキュラムについてブラッシュアップを行い、3年間継続して取り組むことができている。地域の研究機関との年間を通じた協力関係も築くことができた。一方で、1年次において地域と協働しておこなう活動を取り入れていきたい。</li> <li>「水俣ACT II」における外部連携事業も継続し発展している。</li> <li>複数の大学の入学試験において、これまでの探究活動の成果や培った発表技術を生かした発表により、進路実現に繋がるケースが出てきた。</li> </ul>
	開かれた学校づくり	保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A役員を中心としてコロナ禍の中でも創意工夫し、学校行事などの活動を行う。</li> <li>地域、近隣小中学校へ本校の魅力を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各行事について、内容の見直しや、感染リスクを低減する工夫を行い、P T A役員と連携し、学校行事を実施する。</li> <li>地域行事に積極的に参加するとともに小中学校での学習指導及び本校のP Rを行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月のP T A役員会は時期に応じて集合式にせず書面確認にし、感染リスク及び負担軽減を行った。また、文化祭ではP T Aによる食品バザーを3年ぶりに行った。またP T A研究発表では、県代表校に選ばれた。</li> <li>多くの地域行事に参加しP Rを行った。電気建築システム科では出前授業を行った。</li> </ul>
		学校公開と情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的なP R活動により入学者数を増加させる。</li> <li>中学生や地域への情報発信力を向上する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生が進路の調べ学習をしたり、情報を収集したりする際に情報が得やすいよう、学校H P内容の整理を行い、常に新しい情報が見られるようにする。</li> <li>行事や学校独自のプロジェクトなどを、中学生や地域に周知できるよう、市報の活用のほか、H P上での動画配信などを行う。</li> <li>職員全体で年間の行事分担を決めることで学習や部活動の情報更新頻度をあげる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校H Pの内容について大幅な整理を行った。中学生向けの特設ページを開設し、進路調べの際に使いやすくしている。</li> <li>引き続き市報での水俣高校紹介ページを活用するとともに、感染症対策で行事への参加者が制限される分、YouTube等を活用して行事の様子を動画配信している。</li> <li>年度当初に年間行事ごとにブログ担当の割り振りを決めたことで、多様なジャンルのブログ記事をアップできた。</li> <li>上記の取組みもあり、学校H Pの閲覧数は、これまでよりも増加している。</li> </ul>

	業務改革	業務改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の更なる効率化を図り、生徒との共有できる時間(コミュニケーションの場)をつくり充実させる。</li> <li>・業務のICT化により業務時間20%削減させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校務分掌の業務内容のICT化を図り、生徒と向き合う時間を確保し、生徒とのよりよい信頼関係を築く。</li> <li>・報告、連絡、相談を徹底し、風通しのよい職場づくりと明るい人間関係を築く。</li> <li>・朝会や要項をオンライン化することで印刷業務削減、移動時間の捻出、伝達事項のオンライン共有</li> <li>・GoogleForms等を利用した各種アンケートの実施により、用紙や集計時間の削減。</li> <li>・共有ドライブの活用により、データの共有化、資料</li> <li>・教材等作成時間の捻出。</li> <li>・Classroomを利用した出欠、課題の把握。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上期に2022年度学校情報化「優良校」(JAET)を習得し、授業はもちろん業務内容のICT化をはかった。その結果、生徒とのコミュニケーションを図る時間を増やすことが出来た。</li> <li>・各校務分掌での「報告・連絡・相談」を行うことにより個人ではなく、組織としての動きが良くなった。</li> <li>・Classroomで週2回の朝会とした。印刷業務の削減と朝のSHRまでに時間の余裕ができたが、Classroomを利用しての出欠の把握まではできなかった。</li> <li>・授業評価や読書時間の集計、公開授業のアンケートなどをICT化した。設定に時間はかかったが、次年度以降は微調整で済むため業務量が減ると思われる。またアンケート作りに共有ドライブを活用し、複数人で分担することで作業効率が上がった。</li> <li>・Classroomで予習や授業で使うプリントの配付などが行われており活用が進んだ。</li> </ul>
	働き方改革	時間外勤務時間の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」を遵守する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回の定時退勤日設定を周知し、正規勤務時間外の勤務時間の10%減を図る。</li> <li>・部活動の指針を遵守し、平日(5日)での1日の休養日と土日どちらかの休養日を確保する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回の定時退勤日の設定は定着しなかったが、4月～1月までの正規勤務時間外の勤務時間の学校平均時間は昨年度から12%減少した。</li> <li>・部活動の指針については、殆どの部活動で週2日の休養日を確保していたようだがいくつかの部活動ではシーズン中の休養日は週1日であった。</li> </ul>
学力向上	基礎学力向上	基礎学力の定着の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期ごとの成績等に関する保護者会への該当生徒を減少させる。</li> <li>・1ヶ月当たり10時間の読書時間を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考査前学習会を実施する。観点別評価を活用して、生徒個人がどの観点により重点を置いて次につなげるかを明確にする。</li> <li>・朝読書等の時間を活用して、生徒の読書習慣を向上させる。宅習・生活の計画と記録の読書欄を活用する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末考査前に学習会を実施した。観点別評価を導入することで、教師側・生徒側でどの分野を向上させるかなど目標が明確になった。成績に関する保護者会への該当生徒は1学期の10名から2学期の5名と減少した。</li> <li>・朝読書は習慣化できており、自宅での読書時間などを考慮すると1ヶ月の読書時間は平均で5時間30分であり、目標を達成した。</li> </ul>
	自学力の育成	家庭学習の実態把握と学習意欲の喚起	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、学科毎の目標学習時間の設定を半数以上の生徒を達成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅習・生活の計画と記録を活用し、担任や教科担当の個別面談で意識の向上を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月の調査において教務部で設定している宅習時間に対し、達成した生徒数の割合は62%で、目標を達成している。</li> </ul>
	授業力の向上	分かる授業、興味関心を持たせる授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業週間の充実を図る。</li> <li>・授業評価アンケートを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業週間における職員の相互参観を年間1人2回以上の達成。</li> <li>・生徒による授業評価アンケートで7割以上の肯定的評価の達成。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価やICT機器の活用をテーマにした研究授業を全教科で実施できた。また数学科などは研究授業にあわせてスーパーティーチャーや教育センターの指導主事も招聘し、授業力の向上に努めることができています。相互参観は1人当たり1.5回で、相互交流はやや不十分である。</li> <li>・生徒による授業評価はすべての評価項目で肯定的な回答の割合が8割を越えている。</li> </ul>
育	進路意識の高揚	多様な入試に対応するための指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学の総合型、学校推薦型選抜受験希望者への対応を組織的に行い、合格率を高める。(合格率50%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型、学校推薦型選抜の入試研究を行い指導の充実を図る。</li> <li>・小論文の個別指導を実施する。</li> <li>・受験希望者の情報の共有と指導の方向性を組織的に確認する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期末までの国公立大学の総合型・学校推薦型選抜の合格率は70%であった。</li> <li>・夏期後期課外で、予備校講師による小論文講座を水俣市のご支援で実施し本校職員による小論文個別指導の導入として効果的な指導ができた。</li> </ul>

		就職希望者への計画的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職内定100%達成に向けた取組を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望者の目標を早期に具体化させるための取組（インターンシップや現場見学や面談など）を充実させる。</li> <li>・3年生の作文、面接指導を全職員で実施する。</li> <li>・就職試験に向けての対策を計画的に実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の就職希望者は10月中に内定100%を達成し、しかも1人も不調者がいなかった。コロナ禍の影響を入学時から受けた学年であったが、できることを積み重ね、担任を中心に丁寧に指導できた。</li> <li>・2学年でのインターンシップも地元事業所様のご協力で実施できた。</li> </ul>
生徒指導	社会規範意識の醸成	正しい社会規範意識と他者尊重の意識を醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動や服装を自ら判断し、選択できるようにする。</li> <li>・SNSや情報端末の正しい利用方法を習得する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が共通理解を持って指導に取り組む。</li> <li>・年6回のみなまたマナータイムを実施し、時宜にかなった訓話を行う。マナーとして気づき考え行動する力を育む。</li> <li>・講話等を通じた情報モラル教育を行う。職員にも適宜プリントを配布し、常に新しい知識で指導を行えるようにサポートをする。通年で情報モラル教育を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部会から学年会へと各学年職員への共通理解を図った。</li> <li>・みなまたマナータイムにおいては、適宜必要な内容や高校生に関わる法改正の内容を訓話した。</li> <li>・講話等を通じた情報モラル教育を行った。情報係から職員にも適宜プリントが配布され、常に新しい知識で指導を行えた。担任からも指導してもらえるようプリントを作成し、HRで指導をしてもらった。</li> </ul>
	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5S活動を徹底する。</li> <li>・遅刻者数を10%削減する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部が中心となって登校指導を行い、遅刻者の情報を担任と共有し、繰り返さないように個別指導する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は各学年に当番制で登校の様子を確認してもらい、情報共有を行った。遅刻を繰り返す生徒への指導が課題である。</li> </ul>
	防犯及び交通安全意識の高揚	防犯意識の向上と安全運転の励行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二重ロック率99%以上および100%達成率50%にする。</li> <li>・自転車乗車中のスマートフォンの使用についての徹底指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通委員による二重ロック調査を毎日行い、結果を全職員で共有、公表し、未実施者には指導を行う。</li> <li>・交通講話や啓発プリントを配布し意識を高めると共に、事故時の適切な対応方法についてロールプレイを用いて習得させる。</li> <li>・原付通学生対象の安全教育を月に1回実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二重ロック率は99.4%と達成した。しかし、100%達成率は39.3%（昨年度37.0%）と上昇はしたが目標の50%には到達しなかったため、今後も引き続き指導を行う。</li> <li>・交通講話を通して登下校のルールやマナーまた事故後の適切な対応を指導した。道路交通法の改正により、自転車登校での交通違反の指導、ヘルメットの着用努力義務など新たな課題がある。</li> </ul>
	自主性、社会性の育成	自主・自立の精神の涵養と生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒に学校行事及び生徒会行事の意識を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会役員と顧問とのランチミーティングを開き、生徒会役員及び庶務の意思の疎通や共通理解を密にし、絆を深めるとともに、校則についての議論などを通して生徒の自主性、自立性を養う。学校行事について、アンケートを実施し、結果から改善を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会と顧問で、各行事、校則変更などの話し合いを行い、物事の企画・運営を生徒からの目線だけではなく多角的な視点で行った。コロナ禍においても学校行事を充実させた。生徒からのアンケートでは、もっと長い活動時間が欲しいとの回答が多く見られた。来年度も工夫をしながら実施する。</li> </ul>
人権教育の推進	人権教育推進体制の充実と人権意識の深化	校内の人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習機会の定期的な設定による生徒、職員の人権感覚を醸成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同和問題に対する職員研修を実施する。</li> <li>・人権講演会、人権LHRを実施する。</li> <li>・各種校外研修会への参加を通じて職員の人権感覚の醸成を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育主任研修の内容を踏まえ、同和問題等をテーマにした職員を対象の研修を実施した。</li> <li>・「世界から見た水俣」を題材に、有識者を招いて人権講演会を開催した。</li> <li>・北朝鮮当局による拉致問題やハンセン病をめぐる人権、子どもの人権等についてのリモート研修や校外研修会に積極的に参加した。</li> </ul>
		水俣病等に関する人権問題の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水俣病をめぐる人権問題についての各自の意見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間や校外との連携を行いながら、水俣病等の人権問題</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年の総探の時間では、水俣病の歴史や現状についての学習を行い、被害、加害の両方の立場に立って学習するなど、人権感覚を深める取組を行った。</li> </ul>

			の発信力の醸成	学習を通じて、優れた人権感覚の育成を目指す。 ・ポスターセッション等の発表準備を通じて各自の考えを深める。		・2学年の総探の時間では、水銀をテーマにしたグループを作成し、国立水俣病総合研究センターと連携して水銀に関する水俣の取組や水銀条約についての調べ学習とポスターセッションを行った。
	「命を大切に する心」を 育む指導の 推進	「命」や 「生きるこ と」の考察 を通じた自 己肯定感と 他者を思い やる心の育 成	・全教職員によ る全ての教 育場面での 人権を意 識した取組 を実施する。	・全ての教育活動を通じて、人権教育を推進するための職員研修を実施し、生徒の人権教育につなげる。 ・朝読書におけるいじめ関連図書読書の実施。	B	・各教科、科目における人権目標を定め、総合的な人権感覚を育てる取組を行い、人権教育の充実につなげた。 ・図書委員と連携し、ストレス緩和の書籍やヤングケアラーに関する書籍の特設コーナーを作成し、全校集会等で生徒に周知した。
いじめの防止等	いじめの未然防止	いじめを許さない集団の育成	・生徒主体の取組の推進による情報モラル教育の通年に渡る取組を実施する。	・生徒のいじめに対する認識の感度を向上させるために以下の取組を実施する。 ・「いじめを許さない宣言文」や標語等の作成を行なう。 ・朝読書におけるいじめ関連図書読書を実施する。 ・各種アンケートや面談週間、校内相談体制の積極的な案内を行なう。	B	・いじめを許さない宣言文を生徒総会で紹介し、各教室に掲示した。 ・図書委員と連携し、いじめや差別問題に関する書籍の特設コーナーを作成し、全校集会等で生徒に周知した。 ・校内、校外の相談窓口に関する携行用案内カードを作成し、全校生徒に周知、配付した。 ・1学年を対象に、コミュニケーションの取り方に関する講話を行い、他者を思いやる心の醸成に繋げた。
	いじめの発見と適切な対応	校内委員会を中心とした全職員での取組	・スクールサイン（いじめ匿名通報サイト等）の積極的周知と、いじめ事案に対する組織的認知と迅速な対応を行なう。	・面談や各種アンケート等を実施し、いじめの早期発見と速やかな事実の確認にあたる。 ・スクールサインの積極的な周知 ・学期に1回以上のいじめ防止組織会議の開催。 ・被害生徒を守り、加害生徒にも適切に対応する。	B	・学校独自のいじめに関するアンケートを毎学期実施し、面談週間中には、各担任がその情報を基に細やかな面談を行った。 ・スクールサインのサイトにQRコードからアクセスできる携行用カードを作成し、全校生徒に周知、配付した。 ・学期毎に外部専門家を招き、いじめ防止等検討委員会を開催した。 ・いじめの可能性のあるトラブルについては、生徒部職員に加え、いじめ情報集約担当も聞き取りや会議に参加し、慎重な対応を行った。
クールなど 地域連携（コミュニティス	防災教育の充実	防災教育の充実	・主体的に行動し、自分の命を守り抜く。	・防災教育の情報提供 ・避難経路の確認など自助の意識を育てる。	B	・新年度すぐに、避難訓練を実施し、避難経路の確認や災害発生時の対応について考える機会を作り、自助の意識を育んだ。
	地域と連携した災害時の連携体制の確立	防災教育への参加	・水俣市や地域と連携し災害に備える。	・水俣市や地域住人との合同訓練で共助、公助を体験し、学ぶ。 ・職員研修を実施し、生徒の防災教育に繋げる。	B	・合同訓練は市の計画が変わったため、実施できなかったが、創立10周年記念式典時に公共施設内でのシェイクアウト訓練を来賓を含めて初めて実施でき、共助、公助を体験できた。 ・防災避難訓練時に職員、生徒全員が防災DVD視聴し、防災教育を実施した。
特別支援教育	特別支援教育の理解と推進	教職員の専門性の向上	・合理的配慮を要する生徒に対する知識を学ぶ。 ・技術の向上及び専門性を習得する。	・巡回相談の実施と、その際の助言を職員間で共有する。 ・ユニバーサルデザインの視点に応じた授業についての職員研修を行う。	B	・盲学校の巡回相談を実施し、保護者・生徒との教育相談を行った。支援内容の助言をミーティングで職員に周知した。 ・巡回相談で授業評価とUDに基づいた授業について相談した。その内容について、職員研修を実施した。
		特別な支援を必要とする生徒の把握と適切な対応	・合理的配慮を要する生徒の把握とSC、SSWの効果的活用を行なう。 ・「個別の教育支援計画」の作成と活用、	・新生生の情報を早期に把握するため、新生保護者に対して、「保護者の気付きアンケート」を実施する。 ・個別の教育支援計画を引き継いだ新生生は、1学期に全員SCの面談を行う。	B	・保護者の気付きアンケートを集計し、職員へ配付し、生徒の傾向を早期に把握するようにした。 ・個別の教育支援計画を引き継いだ生徒について、入学式前に関係職員と面談を実施し、1学期にSCの面談を実施した。 ・生徒理解研修を2回実施した。 ・課題解決ミーティングを実施し、その中から別途対応が必要な生徒について、SC・

			引継ぎを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒理解研修を複数回実施し、生徒情報を職員間で共有する。</li> <li>各学期の終わりに課題解決ミーティングを実施し個別の指導計画を作成する。</li> <li>個別の教育支援計画は、進路先に基本的に全員引継ぎをする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>関係職員と保護者面談を経て、医療機関受診へつなげた。</li> <li>個別の教育支援計画を作成した3年生の3人（2人就職、1人進学希望）中、進学の引継ぎを行ったのは進学希望の1人のみだった。</li> </ul>
環境・安全教育の推進	「SDGs 未来都市」の一員としての自覚に基づいた環境教育の推進	持続可能な環境活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の主体性を育む取り組みを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会メンバーが中心となって、学校版環境ISO宣言項目に基づいた活動に取り組む。エコスクールDayを毎月実施し、環境への意識や行動について自分自身で振り返り、改善する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコスクールDayを月に1度実施し、自分自身の行動の振り返りを行った。定期的にチェックを行うことがごみの減量や分別の意識を向上に繋がり、実際位に前年度よりゴミの排出量が減少している。チェックシートの内容は、生徒や学校の実情と合わせ、毎年検討していく必要がある。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>環境美化委員会の活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域や企業と連携したSDGsへの取組を生徒職員一丸となって取り組み、その様子をHP等で情報発信する。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業と連携し、コンタクトレンズ空ケースの回収やエコキャップ回収を行っている。これら活動の結果について、生徒に知らせたり、HPで発信したりすることが課題である。</li> </ul>
健康で安全な学校生活の推進	健康な学校生活の推進	健康な学校生活の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症への注意喚起及び感染経路対策を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの新規感染者の人数（前日分）を昇降口に掲示し、感染防止の意識を高める。</li> <li>昼食時の黙食徹底のため、昼休みに巡回指導及び保健委員による啓発を行う。</li> <li>検温、マスク着用、消毒を徹底する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国及び、県内のコロナウイルス新規感染者数を毎日掲示することで、生徒が現状を把握し、感染防止の意識を高めることに繋がった。</li> <li>職員による巡回、保健委員による啓発活動を行った。保健委員の活動として、生徒から募集した標語を昼食時に黒板に掲示した。</li> <li>健康観察による体温の確認を行うことで検温については徹底できている。マスクの着用率は高いが、消毒については、慣れからか以前ほどこまめには出来ていない。今後は新たな取り組みも必要になる。</li> </ul>
		安全な学校生活の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員、生徒の安全意識の向上と、校内における事故リスクを軽減させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年に2回、安全点検を実施し、早急に危険箇所の改善を行なう。</li> <li>運動中の水分補給の指示や、劣悪な環境下での運動を制限し、熱中症のリスクを減らす。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画通りに実施できた。</li> <li>体育の授業や運動時には、水筒を持参させたり、水分補給の時間を設けたりして、喉の渇きを我慢しなくて良い環境を作った。部活動においても、開始時間や給水の工夫で減少傾向にあるが、0には出来なかった。</li> </ul>

<p><b>4 学校関係者評価</b></p> <p>【アンケート結果について】</p> <p>①本校は、特色ある学校づくりに取り組み、職員は業務改革等を意識していると思いますか。 『そう思う(3人)、だいたいそう思う(4人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)』</p> <p>②本校では、わかりやすい授業、ICT活用を意識した授業が行われていると思いますか。 『そう思う(2人)、だいたいそう思う(5人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)』</p> <p>③本校は、保護者・地域に応える進路実績を残していると思いますか。 『そう思う(7人)、だいたいそう思う(0人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)』</p> <p>④本校では、基本的な生活習慣や社会的マナーについて適切な指導がなされていると思いますか。 『そう思う(5人)、だいたいそう思う(4人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)』</p> <p>⑤本校は、人権問題の学習やいじめ等の未然防止を積極的に進めているとおもいますか。 『そう思う(2人)、だいたいそう思う(5人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)』</p> <p>⑥本校は、環境活動に積極的に取り組み、地域やPTAと連携して活動していると思いますか。 『そう思う(5人)、だいたいそう思う(2人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)』</p> <p>⑦本校は、情報発信に積極的に取り組み、保護者や地域の期待に応える教育活動を行っていると思いますか。 『そう思う(5人)、だいたいそう思う(2人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)』</p> <p>⑧本校は、生徒が生き生きとしている学校だと思えますか。 『そう思う(4人)、だいたいそう思う(3人)、あまりそう思わない(0人)、そう思わない(0人)』</p> <p>※全てのアンケート項目で、肯定的な評価であり、否定的な評価は皆無であった。</p> <p>【感想・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校では、技術の免許を持つ職員がいない状況です。水俣高校の先生方、生徒の皆さんに2年生の木工や1年生のプログラミングの授業に協力していただき、大変感謝しております。</li> <li>アンケートで、「在校生徒自身が入学に満足している」が、87%と高く。そのことが家庭で見えているから保護者も91%と連携していると思える。</li> <li>自治会との交流の場があまりないので、今後、自治会としても検討してまいります。</li> </ul>
---

- ・水俣高校は素晴らしい高校だと感じています。
- ・各学科の進学率を高めることで、学校の雰囲気が変わってくると思います。
- ・部活動は外部コーチ等の利用で、先生方に余裕を持ってもらえると思います。

## 5 総合評価

### (1) 全体について

昨年度までは新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で学校行事中止や生徒・職員のみでの学校行事であったが、今年度はリスクレベルの下降と新規感染者数の低下等から来校者数の制限が緩和され少しずつではあるが従来の学校生活に戻りつつある。また、上期には、2022年度学校情報化「優良校」(JAET)を習得し、授業はもちろん業務内容のICT化をはかることができた。その中で自己評価においては、9個の大項目に対して、28の具体的な目標及び方策を設けて評価を行った。結果はA評価が2個(7%)、B評価が25個(89.5%)、C評価が1個(3.5%)、D評価も0個(0%)であった。昨年と比べるとA評価の割合が4ポイント減少し、B評価の割合が0.5ポイント増加し、C評価の割合が3.5ポイント増加し、D評価の割合は同じであった。

### (2) 本年度の重点目標について

#### ①健全な心身の育成

今年度はコロナ禍での「新しい生活様式」の推進と県のリスクレベルに応じた対応を図りながら全職員で基本的な生活習慣の確立と正しい社会規範意識と他者尊重の意識の醸成を行った。情報モラル教育については、学校情報化「優良校」の習得もあり、機会ある毎に企画部(情報係)を中心に取り組むことができた。また、外部講師や生徒指導部による情報モラル講演を開催し、生徒の意識の高揚を図った。SNS等でのいじめや誹謗中傷は殆どなかった。部活動の振興については、コロナ禍での「新しい生活様式」に沿った活動に取り組みながら限られた時間の中で、多くの生徒が諦めることなく、精一杯取り組み、自己の能力を伸ばしながら仲間との協調性を強めていた。

#### ②確かな学力の育成と進路実現に向けた取組の充実

基礎学力の定着と自学力の育成として、宅習・生活の計画と記録調査の実施、公開授業週間の実施、研究授業の実施、観点別評価の導入等を行った。学校評価アンケートでみると「家庭学習に取り組む習慣化している」の項目では、昨年度とほぼ同じ数値であり、意識の低下はみられなかった。次年度は普通科の朝課外が取り止めとなるので宅習時間が減少しないように創意工夫を行わなければならない。また、「教え方が工夫されていて分かりやすい」の項目では、職員の取組に対する意識に比べて、生徒の受け止め方でみると生徒側が23%程低い。昨年度と比較すれば意識の差は7ポイントほど、ひろがってしまった。

進路実現については、今年度もコロナ禍での対応となったが、企業見学や試験などに制限があったが、比較的スムーズに対応することができた。就職関係では10月には殆どの生徒が内定を頂き、全ての生徒が第一志望の企業であった。進学では、2学期末までの国公立大学の総合型・学校推薦型選抜の合格率は70%であった。夏期後期課外では予備校講師による小論文講座を水俣市のご支援で実施し、職員による小論文個別指導の導入として効果的な指導となり、生徒たちの進路実現に繋がった。

#### ③SGH事業の効果的な継承とグローバルリーダーの育成

総合的な探究の時間(SGH事業からの継承について)は、本校の「特色ある学校づくり」の中心事業であり、SGH事業期間における関係機関との連携事業を効果的に継承しながら地域の研究機関と協力関係を築き、グローバルリーダーの育成を目指した。国際交流については、今年度も水俣環境アカデミア協定締結先の日越大学(ベトナム)や州立モンタナ大学(アメリカ)とオンラインでの交流を実施することができた。機械科が取り組んでいる鳥獣被害対策「イノシカハンターズ」と電気建築システム科建築コースが取り組んでいる水俣環境アカデミアと連携した「Wood Conrct Project」の研究活動では、県内のSDGsに関する独自の先導的な取り組みを行う個人・団体等を表彰する「くまもとSDGsアワード2022」に入賞することができた。本校の取組みは、探究活動の中から地域の課題を自分事と捉え、様々な機関と連携し、持続可能な取組みで複数のプロジェクトが活動している点が評価された。

#### ④保護者や地域社会に信頼される学校づくり

建築コースの生徒と職員による地元の小学校への「ものづくり教育」、地元中学校への「出前授業」を実施し、水俣高校のアピールを含めた地域貢献が今年度もできた。また、電気コースでも小学生を対象としたプログラミング教室を開催し、地域との交流を深めることができた。普通科では、総合的な探究の時間での活動、課題研究での活動、部活動生によるボランティア活動など、多くの面で地域社会との交流を進めることができた。

## 6 次年度への課題・改善方策

### (1) 学校経営

次年度の課題はやはり募集人員の増加と考える。令和5年度の入学予定者は令和4年度の入学者より21名増で、地元中学3年生の数が増加、進学率は昨年よりは若干低下した。一時的な増加にならないように、これまでの取組みのようにHP(学校紹介動画、質問コーナー、最新の話題など)などの広報活動や「総合的な探究の時間(SGH事業からの継承)」活動や専門学科の特性を生かした取組の充実と促進を図っていかなければならない。また、これまでの中学校への出前授業だけでなく、小学生を対象とした交流活動の充実を図ることによって、地元唯一の高校に進学してくれる生徒が年々増加するように水俣高校の魅力発信に努める。

### (2) 授業改善と学力向上

観点別評価の見直しと改善を行う。研究授業や公開授業週間にあわせてスーパーティーチャーや教育センターとの連携を図り、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進し、生徒の興味関心を高め、分かりやすい授業づくりに努めて行く。また、令和5年度から普通科の朝課外が取り止めになるのでICTを活用した学習方法を充実させ、生徒個人の主体的で深い学びができるように学習環境を整える。

### (3) キャリア教育の充実

早い段階での進路目標の設定を行い、3年間を見通したキャリア教育をさらに充実させる。2年次でのインターンシップ等の体験活動の充実を図り、職業観・労働観を育み、生徒一人一人が目的意識を持って日々の活動に取り組む態度を育成する。また、本校の特徴である「総合的な探究の時間」や専門学科の「課題研究」での活動を、それぞれの進路実現に繋げることができるように取り組む。

### (4) 生徒指導の充実

・交通講話を通して登下校のルールやマナーまた事故後の適切な対応を指導した。道路交通法の改正により、自転車登校での交通違反の指導、ヘルメットの着用努力義務など新たな課題に対応し、生徒の命を守る。

### ・情報モラル教育

学校情報化優良校を習得したことからICTのシステム等の充実だけではなく、生徒及び職員の情報モラルの定着に努めていかなければならない。また、SNSの正しい使い方についてもこれまで以上に講話等を通じた指導や学校生活のあらゆる場面での指導を行いながら、家庭との連携も強め、保護者と一緒になった見守りができるように努める。

### (5) SGH継承と地域連携の推進

令和5年度も「SGHネットワーク」への参加と民間の支援事業の継続を生かし、「総合的な探究の時間」の活動や専門学科の「課題研究」の研究活動で、SGH事業で構築したネットワークを活用し、国立研究施設や自自体と連携・協働した環境教育の更なる推進を図りながら生徒たちの社会性の向上とグローバルな人材育成に繋がるように努める。